

● 13～14日、第4回モルドバ・EU連合協定交渉

A. 主な動き

1. 内政

▼期限前議会選挙に向けた動き

- ・11日、中央選挙管理委員会は、先週に候補者リストの提出があった民主党、自由党、「我々のモルドバ」同盟 (AMN) 及び共産党を含む12党を参加政党として登録。
- ・12日、フィラト首相は、同選挙における国外投票所の数は、9月5日に実施された国民投票の際に設置された国外投票所の数と同じとなると発言。
- ・12日、フィラト首相は、選挙運動に参加する者は大臣としての職務を行うことはできないと規定した憲法13条は、各大臣の任期は新たな内閣が結成された際に終了すると規定した憲法103条に違反しているとし、憲法裁判所に解釈を請求。
- ・12日、ヴォローニン前大統領は、昨年議会が大統領選出に失敗したのはルプ民主党党首の責任であると非難、共産党は議会の50%以上の議席を獲得し政治危機に終止符を打つと発言。
- ・13日、調査団体Promo-Lexは、民主党、「我々のモルドバ」同盟 (AMN) 及び共産党が既に選挙運動の際に違反を犯したとの調査報告を発表。
- ・14日、民主党、自由党及び「我々のモルドバ」同盟 (AMN) は、選挙名簿に掲載された各党所属の大臣 (民主党: ラザル副首相兼経済相、ラドゥカン建設地方発展相、ブリガ労働社会保障家族相、自由党: マリヌタ国防相、チョバヌ青年スポーツ相、シャラル環境相、シャラル運輸道路インフラ相、AMN: オシポフ沿ドニエストル問題担当副首相、コサルチウク農業食品産業相、ブジョル教育相、オレイニクIT通信相) 及び副大臣の選挙運動間の一時的権限停止を決定。

▼その他

- ・11日、議会法務委員会は、ヴォローニン前大統領及びポプショイ共産党議員の議員資格剥奪については証拠不十分であるとし、審議を検事総局へ差し戻し。
- ・15日、中央選挙管理委員会は、ドゥドグロ・コムラト市長等によって提起されたロシア語の第二公用語化の是非を問う国民投票実施の要否につき議会に判断を請求。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・10日、中央銀行は、2010年第2四半期の直接海外投資は3,840万ドルであり、前年同期と比較して2倍と発表。第1四半期比では30%の減少。

▼金融

- ・12日、ネグルツァ財務相は、ワシントンで開かれたIMFと世銀の年会に参加、ゲオルギエフ対モルドバIMFミッション代表らと会談。IMFは、モルドバのIMFとの協力を評価。

▼その他

- ・11日、経済省は、モルドバは東欧・南コーカサス投資・競争力・民間部門発展に関するOECDのイニシアティブの正式なメンバーとなったと発表。

3. 外政

▼13～14日、第4回モルドバ・EU連合協定交渉

- ・モルドバ側からはレアンカ外務欧州統合相、EU側からはヴィーガンド欧州委員会対外関係総局長が出席。連合協定本文の大部分の合意が終了、残りの部分については来年1月13日にブラッセルにて開催される第5回交渉で検討予定。
- ・レアンカ外務欧州統合相は、この一年がモルドバ外政にとって大変目覚ましく、EU側も極めてオープンであったと総括。ヴィーガンド局長は、対EU関係におけるモルドバのこの一年の進歩を評価、EUが今後もモルドバを支援する旨発言。

▼その他

- ・13日、ルーマニア外務省は、モルドバ側との国境画定合意文書の調整をほぼ終了したと発表。

4. 沿ドニエストル

▼主な動き

- ・11日、ティシェイラ駐ウクライナEU大使は、EUBAMがモルドバの沿ドニエストル地域とウクライナ間の国境画定作業に支援を継続する旨発言。
- ・11日、第15回EUBAM調整会議でポポフ外務次官は、ウクライナ・沿ドニエストル間の国境画定作業の開始及びキシナウ・オデッサ間の旅客鉄道運行再開をEUBAMの活動の成功例と言及。
- ・12日、期限前議会選挙に「我々のモルドバ」から立候補するオシポフ沿ドニエストル問題担当副首相は、選挙運動期間中も沿ドニエストル問題解決交渉にモルドバの代表者として参加する意向であり、国家再統合問題局長として活動を停止する間はバラン同次長を局長に充てると発表。
- ・12日、ミジェイ駐モルドバEU特別代表は、「5+2」者協議におけるEU及び米国に対する保証ステータス及び「5+2」者公式協議再開の問題が、アスタナでのOSCEサミットで解決されるよう期待を表明。

・12日、欧州議会外務委員会代表团は、沿ドニエストルを訪問、「5+2」協議の今後の展望等につき、スミルノフ「大統領」、カミンスキ「議会」議長及びヤストレプチャク「外相」と会談。スミルノフ「大統領」は、選挙運動実施中のモルドバには交渉を行うことのできる人間がいないと発言。

・13日、メルケル独首相は、独は沿ドニエストル問題解決に関心を抱いており、バセスク・ルーマニア大統領との会談において同問題は主要トピックの一つとなった旨発言。

・15日、オシポフ沿ドニエストル問題担当副首相はヤストレプチャク沿ドニエストル「外相」と駐モルドバ・ウクライナ大使館で会談。11月9～10日にドイツにて開催されるOSCEの会議に積極的に参加し、信頼醸成措置の成果につき報告することで合意。

▼経済

・11日、沿ドニエストル「議会」経済政策・予算委員会は、2011年の年金基金及び占領支援基金の予算案を可決。年金は、12%のインフレ予測に従って支給額が四半期ごとに凡そ1ドル上昇予定、平均支給額は981沿ドニエストル・ルーブル（約98ドル）。

・15日、モロカノヴァ「財務相」は、2011年の予算は赤字が70%とここ5年のうちで最も厳しいものとなり、インフレ率は12%に達する予定でGDPの成長率は2.5%、歳出は1億8,000万ドル、歳入は4億7,000万ドルの見込みと発表。

・15日、「経済省」は、沿ドニエストルの9月のインフレ率は1.6%、1-9月期のインフレ率は9.1%と発表。

B. その他の動き

10/11（月）

・パンフィレ国防省次官以下モルドバ代表团は、アルバニアで

開催された東欧国防相会合にオブザーバー国として参加。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」（ロシア語読み）を暫定的に「キシナウ」（モルドバ語読み）と標記しています。
（了）